

文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)
福祉課題への変革プログラムに取り組む実践家と組織の評価
キャパシティ形成(ECB) 支援法の開発研究プロジェクト

(重層的支援体制整備事業や近年の政策動向にも対応した)

多様な就労困難者の効果的な就 労支援のしくみをつくるために!!

試行評価調査プロジェクト(約1年間のプログラム試 行研究)説明会へのご案内

日時

2023年

3月27日 月 15:30-17:30

開催
方法

Zoomにて開催(zoom情報は説明会にお申込み
のメールアドレス宛にお送りします)。

基調
講演

『就労支援と重層的支援体制整備事業に関する今後の方針と課題』
【登壇】米田隆史氏(厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者自立支
援室長、地域共生社会推進室長)

第1部

『多様な就労困難者の効果的な就労支援モデルのご説明』
【登壇】新藤健太氏(日本社会事業大学)、西岡正次氏(A'ワーク創造館)

第2部

『試行評価調査プロジェクトのご説明』
【登壇】新藤健太氏(日本社会事業大学)、大島巖氏(東北福祉大学)、
池本修悟氏(公益社団法人ユニバーサル志縁センター)

質疑
応答

『効果的な支援モデルや試行評価調査プロジェクトに関する質疑
応答・意見交換』

★説明会に関するお問い合わせはこちらをお願いします(shindo@jcs.ac.jp)

★説明会へのお申込みはこちらからお願いします(当日、ご都合が悪く参加ができない
場合も是非お申込みください。後日、説明会動画を配信させていただきます)。

【説明会参加申し込み用 Googleフォーム】

(<https://forms.gle/7f5yTXHH5Wstj6XY6>)

GoogleフォームのQRコードです
(こちらからでもお申込みできます)

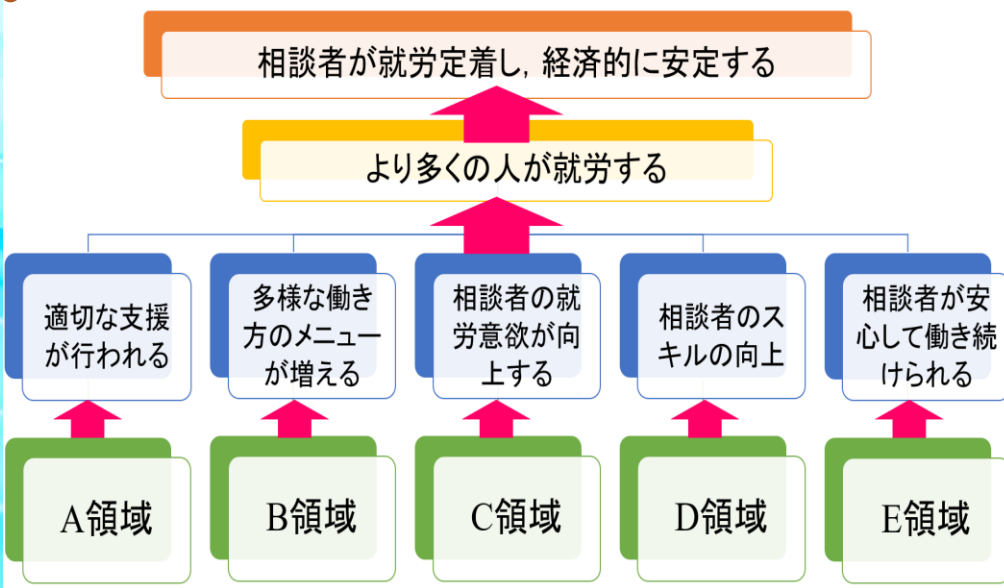


【共催】

・公益社団法人ユニバーサル志縁センター

・福祉課題への変革プログラムに取り組む実践家と組織の評価キャパシティ形成(ECB) 支
援法開発研究班(代表:大島巖:東北福祉大学教授・副学長)

効果モデル開発の背景



生活困窮者制度がスタートした当初、任意事業の位置づけだった**就労準備支援事業が努力義務化され**就労支援の強化が図られたり、近年、**重層的支援体制整備事業が開始されるなかでネットワーク型の就労支援が各地で展開されるようになる**など、就労支援に関するニーズが政策的にも実践的にも高まっています。

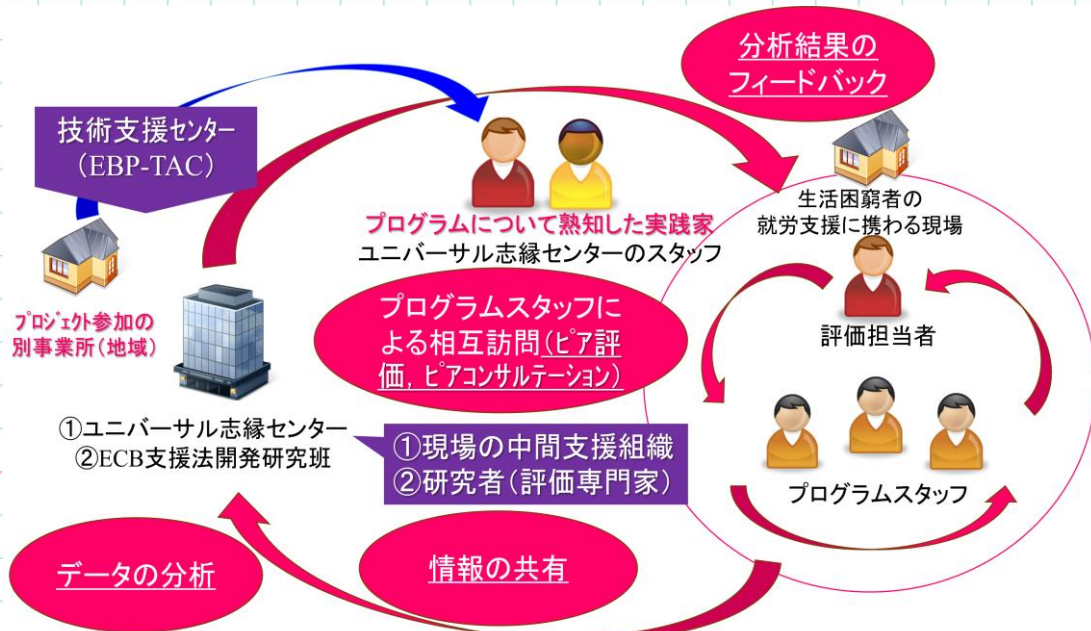
【図1】効果モデルのロジックモデル（設計図）

本プロジェクトは私たちが開発してきた**就労支援に関する効果的なプログラムモデル（図1）**を活用し、現場実践の改善を図るとともに、このモデルの有効性を明らかにしようとするプロジェクトです。

試行評価調査プロジェクトの概要

本試行評価調査プロジェクトでは6か月間、効果モデルに取り組んで頂くことを想定しています。この6か月間の間は、**研究チームからの効果モデル実施に関するコンサルテーションや、プロジェクト参加機関同士の相互訪問も想定しています**。こうしたことを通して、効果モデルの実施のみではなく、プロジェクトに参加いただく機関の**皆様が日頃感じているらっしゃる困難なことを明らかにし、その解決も目指していきます**。実践現場が互いに課題を打ち明け合い、協働して解決していく機会、全国の有効な実践と出会う機会を創出したいと考えています（図2）。

なお、**プロジェクト実施期間は2023年5月～2024年4月の1年間**を想定し、効果モデルに取り組む機関をAグループ、Bグループの2つに分けてそれぞれに6か月間効果モデルの実践を試行して頂くことで、**厳格な有効性の検証を行います**（例えばランダム化比較試験といわれるような）。※プロジェクトの詳細は説明会でご説明いたします。



【図2】試行評価プロジェクトを通じた相互訪問の概要